



文苑

偶作六首

佐々木信綱

なら林くぬぎのはやし一すぢの

小川めぐれる我いへるかな

山かげの我すむ家はせまけれど

妻あり子あり春のかぜふく

なつかしき母のみ面わふと消て

燈火くらしさみだれのおと

大寺のいらか高くも見ゆるかな

里をつゝめる朝きりの上に

もろともに遊びし野邊よ池よ山よ

又いつの世か共に見るべき

たゞよへる夕べの雲を仰ぎみて

何とはなしに物ぞかなしき

鶏 竹柏會同人

増山三雪子

わかつききの夢おとろかす家つ鳥

老はねざめの友とこそ聞け

板倉 止子

時つくる其いさばしは世の中に

庭鳥にますとりはあらじな

板倉 藤子

賤の女がうたふ田歌も静まりて

晝げいそがす庭とりのこそ

松平 岳子

庭鳥のしのゝめ告ぐる聲きよし

疾く起出て、朝きよめせん

安東 菊子

人もかくあらまほしけれ曉の

入こそ鳥は時をたかへず

堀越 しな子

あなたにて鳴けば此方も聲あはせ

ことありけにも庭鳥のなく